

《被表彰者の概要》〔6件：図書館1件、幼稚園1件、学校3件、団体（個人）1件〕

〈図書館・公民館図書室〉

被表彰者名	鹿児島市立図書館
功績内容	1 概要 (1) 職員数 14 人（司書 2 人） (2) 蔵書数に占める児童用図書の割合 26.9%（県 36.5%） (3) 全図書購入冊数に占める児童書の割合 29.6% 2 特色ある取組 (1) 図書館ボランティア「りとるコアラ」と連携し、読み聞かせのコツや選書の仕方、わらべうたについて学ぶ「絵本とわらべうた講座」を開催している。 (2) 図書館職員及び教職員ボランティアによる「読書感想文書き方教室」を開催し、読書感想文の書き方について学ぶ機会を設けている。 (3) 市立学校の児童生徒に市電子図書館用 ID を配布し、読書の機会拡充と、授業における活用促進を図っている。 (4) 大学生が、ゼミ活動やサークル活動の一環として、学習とは少し違う「研究」の魅力や面白さを講義形式で発信したり、読書に関する大学生の生の声をワークショップ形式で発信したりしている。また、絵本の読み聞かせやしおり製作等のイベント、書籍紹介や絵本展を通して、幼児・児童との交流も行っている。

〈学校・園〉

被表彰者名	薩摩川内市立亀山幼稚園
功績内容	1 概要 園児数 8 人、職員数 7 人 2 特色ある取組 (1) 朝の会・帰りの会における日常的な絵本の読み聞かせのほか、読み聞かせボランティアや家庭教育学級での父親の読み聞かせ会など、家庭・地域と連携した読み聞かせ活動を行っている。 (2) 移動図書館を定期的に利用し、親子で絵本を借りて家庭での読み聞かせにつなげるなど、親子読書活動を推進している。 (3) 園児とともに環境設営を行った「うさぎ図書館」や各保育室に絵本コーナーを設置するなど、園児が自ら本に手を伸ばしたくなる環境づくりを工夫して行っている。 (4) 絵本の世界を遊びへと発展させ、人形劇やペープサート、読み聞かせごっこなどの表現活動につなげ、読書への興味・関心を深めている。

被表彰者名	鹿児島市立吉野小学校
功績内容	1 概要 児童数 1,076 人、職員数 64 人 2 特色ある取組 (1) 「読書センター」として、担任を入れ替えた読み聞かせやボランティアグループによる読み聞かせ、よしの 50 選（推薦図書）の選定、読書郵便や POP 作成等の多様な表現活動を実施している。 (2) 「学習センター」として、教育課程に沿った「学年別キーワードビンゴ」や本の分類に特化したオリエンテーションを全学級に実施するなど、授業や学習に生かせる図書館環境を整備している。 (3) 「情報センター」として、図書資料だけでなくデジタル図書館を活用することで、大規模校ゆえの資料不足を想定した手立てを講じている。りんごの棚（バリアフリー図書）も設置している。 (4) 近隣小中学校による連携や外部機関への講師招聘、公共図書館の活用、家読の実施等、学校、家庭、地域、関係機関が連携した多様な読書活動を展開している。

被表彰者名	霧島市立霧島中学校
功績内容	1 概要 児童数 79 人、職員数 17 人 2 特色ある取組 読書活動をとおして、学校から家庭や地域への読書推進がつながることを目指した取組を推進している。 (1) 生徒がビブリオバトルで紹介した本を地区公民館図書室に展示依頼したり、夏休みに本の POP を作成させ、地区の文化祭で展示したりしている。（地域とのつながり） (2) 4 校の中学校と連携し、お互いの学校図書館での取組をコラボ展示したり、地区内の 3 小学校に中学生のおすすめの本を 20 冊貸し出したりしている。（他校とのつながり） (3) 文字・活字文化推進機構の事業における読書バリアフリー体験セットを取り寄せ、図書館での展示や授業において利用できるようにしている。りんごの棚も設置している。（社会とのつながり） (4) 学校で実施するビブリオバトルの前に学校図書館で体験教室を開催したり、月に一回、朝読書の時間に新聞記事を読む日を設定したりしている。（校内とのつながり）

被表彰者名	鹿児島南高等学校
功績内容	1 概要 (1) 生徒数 941 人、24 学級、職員数 68 人 (2) 学校図書館の蔵書数 23,895 冊 年間利用平均冊数 9.5 冊 2 特色ある取組 (1) 全学年を対象に朝読書を原則毎日実施している。学校全体で取り組み、図書委員による放送での呼びかけや学級文庫の設置を行い、読書習慣の定着と読書への意欲・関心の向上を図っている。 (2) 鹿児島市立図書館から図書の貸出を利用している。県や鹿児島市立図書館主催のビブリオバトル大会に発表者や運営ボランティアとして積極的に参加している。 (3) 読書への興味・関心をさらに深めるため、生徒会図書委員会が生徒の視点を生かして「図書だより」を作成・発行している。また、各学年の教室棟の廊下におすすめの本を掲示し紹介するなど、多角的な工夫で読書への関心を促している。校内でのビブリオバトルの開催、文化祭での教師が推薦する書籍紹介や生徒が心に残った一節の発表、本の世界観をハーバリウムで表現するなど、生徒主体の多彩な読書を推進する活動も充実している。

〈団体（個人）〉

被表彰者名	あまみ子どもライブラリー
功績内容	1 概要 会員数 20 人、活動年数 33 年 2 特色ある取組 (1) 奄美図書館を中心に、島内の児童センターや老人ホームで、読み聞かせやわらべうた等を行うおはなし会の他、保護者向けの読み聞かせ教室を定期的に実施している。また、徳之島図書館においても、子育て講座を通して読み聞かせの重要性を伝えている。 (2) おはなし会では、方言を用いたお話や民話を積極的に取り入れている。開催地域に伝わる民話や方言を扱い、方言の難しいイントネーションを「音」で捉えられるよう工夫して読み聞かせを行うなど、奄美の方言を次の世代へ引き継ぐことに尽力している。 (3) 民話絵本の制作に携わり、その絵本を活用して読み聞かせを行っている。 (4) おはなし会では、子供たちの様子を丁寧に観察し、その反応や実態を踏まえながら今後のおはなし会の内容について協議を重ね、子供たちに適した、より充実した会になるように努めている。

